

米国カレッジ事情 ― 入学前教育の観点から

小棹 理子^a

^a 湘北短期大学情報メディア学科

【抄録】

湘北短大型入学前教育科目を確立するにあたり、本学の実教育内容やカリキュラム検討の参考とするため、米国東海岸の高等教育機関等で教育事例の視察研修を行った。キャリア教育の観点からも重要な高校―短大―大学の接続性に重点をおいた。本稿では、コミュニティカレッジの特徴、ブレンデッドラーニングの効果、高校との連携、リベラルアーツ科目の位置づけなどに関して得られた知見を報告する。

【キーワード】

入学事前授業 コミュニティカレッジ 米国カレッジ キャリア教育

1. はじめに

米国の大学・短大は、次の6種類に分類される¹。
①研究大学、②博士号授与大学、③修士（総合制）大学・カレッジ、④学士（リベラル・アーツ）カレッジ、⑤準学士カレッジ、⑥専門学校・専門大学・種族系カレッジ、である。コミュニティカレッジは、⑤の準学士カレッジに相当し、公立（州立、市立、郡立）の2年制短期大学と言いかえることができる。

米国の高等教育機関は、それらの設立時²から低学力との戦いであったと言われ、歴史的にも興味深いが、現在の学力不足の問題はその当時のものとは異なる。1960年代の公民権運動による低所得層の学生の受け入れ拡大、さらには1970年代の教育のリベラル化によるマイノリティへの進学

促進策による進学率の大幅上昇（50%超）の結果としてユニバーサル時代を迎えたことによるものである。

1990年以降の進学率は60%を超えているが、学生の定着率は低く、この問題の解決と学力の保証をめざして学習支援（リメディアル教育 Remedial or Developmental Education）が実施されてきた。とくにコミュニティカレッジは、米国高等教育機関の1/3を占め、2004年調査では、公立のコミュニティカレッジの99.5%³がリメディアル教育を実施している。

湘北短大型入学前教育科目を確立するにあたり、本学の実教育に参考となる米国の教育事例の視察を行った。本視察研修は、平成22年度文部科学省大学改革推進事業【テーマA】の一環であり、研修は2グループ（米国東部とシカゴ）⁴に分かれて実施したが、ここではそのうちの高校、カレッジ、四年制大学の教育方法やそれぞれの機能を意識して視察した米国東部の報告を行う。

<連絡先>

小棹 理子 ozao@shohoku.ac.jp

2. 米国の教育

今回の視察研修に関連する基礎知識を以下にまとめる。

2.1 コミュニティカレッジ

連邦・州政府が高等教育に求めるものが違うため、米国には様々な態様のコミュニティカレッジが存在するが、その伝統的な教育機能は、以下に集約することができる^[1]：

- ① College transfer preparation
(四年制大学編入準備)
- ② Vocational technical education
(職業技術支援)
- ③ Continuing education (生涯教育)
- ④ Community service
(地域コミュニティサービス)
- ⑤ Remedial/developmental education
(補習教育支援)

そもそも米国の大学教育の目的は、州や連邦政府、企業に能力ある人材を提供することであり、高等教育は、要求される知識をもつ技術者を企業に供給するプロセスであった。その中にあって、コミュニティカレッジは、経済発展に貢献する教育機関として連邦や州政府の期待を担うと同時に、学生の要望に応える教育を提供するという使命を負ってきた⁵⁾。

現在の米国のコミュニティカレッジの特徴は、その使命から次のような点があげられる。(a) 地域性が高い、(b) オープンアドミッションポリシーである(入学希望生すべてを受け入れる)、(c) 授業料が低廉、(d) 公立、(e) 準学士号が取得可能。これらはまた、受講生の特徴である(1) 社会的・経済的に低階層出身者が多い(親の教育レベル・収入が低い)、(2) 少数民族(マイノリティ)の割合が高い、(3) 年齢分布が広く、平均年齢が高い、

(4) 勤労学生が多く、パートタイム受講生の割合が高い、などと呼応している。

一方で、Boyer, E.L.は、学生の獲得に重点を置きすぎたために、学生の要望に迎合する教育が過ぎたこともあると指摘している^[2]。つまり、学生が高等教育機関に期待する役割が、キャリアに役立つ就職指導と、それに直接関連のある職業専門教育になり、その結果として、大学教育が技能の訓練に重点を置いた職業重視の教育内容に偏るようになったとしている。就職第一主義は、資格取得第一主義にも通じ、「知識の断片化」、「学科の細分化」、「実学至上主義」に陥った、と指摘している。

Kerrは、アメリカは、高等教育においてユニバーサルアクセスを最初に完成させた国であり、多元的高等教育への道を進む、と見ていた^[3]。Parnell, D.による見方は、オープンアクセスと相反する古典的・伝統的指標である「質的基準」を共生させ、柔軟性(多様性)で困難を乗り越えてきた、というもので、これがアメリカ高等教育の強みにもなっている、とするものである。つまり、コミュニティカレッジは、地域経済発展のための教育資源・環境を提供する総合学習機関であるとするものである。

その他にも、コミュニティカレッジの役割やその内容そのものに関して様々に議論されてきた。CohenやBrawerは、1960～70年代に学生の学力低下が顕在化した際に、「リベラルアーツ」を「一般教育」という名称に変更し、職業教育をその中に包含させた^[4]。Tyree, L.やCumming, B.が同様の指摘をした^[5]ことにより、基礎的3R's(Basic Reading, Writing, and Computational skills)に加え、人材育成のための教育が組み込まれた。たとえば、「Listening and Speaking(対人コミュニケーション力)」「Problem Solving(問題解決力)」「Creative Thinking(創造的思考力)」「Self Esteem(自尊心)」「Interpersonal skills(組織力)」

などが新たに必要とされた。このような経緯を経て、現在、大部分のコミュニティカレッジは、「一般教育」の教育目的を下記にあげる力の育成としている。①コミュニケーション力、②数量掌握能力、③批判的思考能力、④問題解決能力、⑤柔軟的思考能力、⑥生涯学習への対応能力。

さらに、高度情報化社会に対応できる人材として「応用アカデミック知識」が必要であるという。①高校レベル以上の学力、②応用専門性、③職業訓練経験、④情報技術、に加え、新しい方法に対処できる問題解決能力が要求されている、というものである。

2.2 チャータースクール

チャータースクールとは、アメリカ合衆国で1990年代から増えつつある公募型研究開発校（チャーター（Charter）と呼ばれる特別認可、あるいは達成目標契約により認可された学校）である。保護者、地域住民、教師、市民活動家などが、その地域で新しいタイプの学校の設立を希望し、その運営のための教員やスタッフを集め、その学校の特徴や設立数年後の到達目標を定めて設立の申請を行う。認可された場合、公的な資金の援助を受けて学校が設立される。運営は設立申請を行った民間のグループが担当する。その意味では、公設民間運営校であるが、所定の年限の内に目標の達成や就学児童が集まらない事態に陥った時には学校は閉校になり、その場合の負債は運営者たちが負うことになる。多くのチャータースクールでは、その成果を問われるため、年度ごとのレポートを公開して、5年ごとに見直しを行っている。

2.3 補習教育

米国における補習教育は、上述したように1960年代に退役軍人や、低所得層出身者に対して高等教育機関が門戸を開放したため、中等教育以下の

教育機関がカレッジに進むために必要なスキルを保証できなくなったのが発端と言われる。その際に、3R'sという伝統的範疇から、「成人基礎教育」などの識字レベルの教育内容を含む成人教育の意味合いを持たせ、「Developmental Education」という拡大された概念で実施されるようになった。Developmental Educationは谷川によれば「発達教育」と訳されるべきもの^[6]であり、学生が十分に「機能する成人」として成長することを助ける教育であって、「学習者の不適格性」を補う「Remedial Education」とは性格を異にするとのことである。とくに1980年代には、「Innovative Classroom Strategies」、「Instructional Materials」、「Learning Environment」により基礎学習機能の教授法を向上させ、学習・教授環境の整備がなされた。

「補習教育」の問題点の洗い出しと解決は、1990年代に図られた。とくに四年制大学では、次の2点が問題視された。(1) 高等教育の「アカデミック基準」の低下、と(2) 高コスト（初・中等教育レベルに比較して負担が大きい）。この結果、カリフォルニア州立大学のように補習教育を廃止したり、State University of New Yorkのように財政的効率性から4年制大学の補習教育を州立大学内のコミュニティカレッジに移譲したり、City University of New Yorkのように、4年制大学やカレッジに転学するためには「補習教育」を完全に修了した者のみに制限を設けたりすることとなった。つまり、補習教育をコミュニティカレッジへと役割分担させたと見ることができる。

3. 米国視察研修の実施

さて、本邦においても、短期大学の第一の目的は「地域経済に資する人材の提供」という点では一致する。したがって、Tyreeら（2.3参照）が指摘したような能力を高めるためになされている教

育は参考になるはずである。一方、現状ではいくつか異なる点もある。たとえば、①本学から4年制大学への編入を希望する割合は、多くても10%程度である（逆転入学の可能性は低い）。②マイノリティが存在しない。③日本ではほぼ100%が18歳で入学し、20歳で卒業するため、広い年齢分布をもたない。

①は、本学のような短大が実施する入学前教育が4年制大学の初年次教育と決定的に異なる点と重なる。つまり、補習教育の中でも、大学進学のための教育、換言すれば、4年制大学で学ぶ専門教育の準備教育、の必要性は低い。②、③は、現在の日本の教育の弱点かも知れない。「グローバル」や「ダイバーシティ」の概念が導入される所

以であろう。また、米国のコミュニティカレッジでは就職支援は活発ではない。コミュニティカレッジで学ぶ学生にとって、卒業後の進路を決定する教育は高校でなされているからである。

今回とくに興味深いのは、本邦においては米国の1980年代のプロセスが十分に認識されずにリメディアル教育が実施されている点である。つまり、米国では、「補習教育」を「プログラム（科目）としての専門性」へと進化させた歴史がある。これらの点に留意しつつ研修を実施した。

視察研修を行うにあたり、2009年より準備を進めて研修先を選定し、勉強会を重ねて⁶、下記の2グループに分かれて視察を行ったが、ここでは①のAグループの内容に限っている。

①Aグループ：米国東部（ニューヨーク州、マサチューセッツ州、コロンビア自治区（Washington District of Columbia））の下記教育機関の視察研修。

期 間：2010年9月3日～9月15日

視察先：3.1 大学～大学院（New York）：Monroe College

3.2 チャータースクール（K12まで）（Boston）

MATCH Charter Public School

Roxbury preparatory Charter School

Boston Collegiate Charter School, Boston

3.3 コミュニティカレッジ（Washington DC）

The Community College of the District of Columbia, Washington D.C.

（University of District of Columbia内に新設）

メンバー：小棹理子（リベラルアーツセンター・情報メディア学科教授、事業推進責任者）

野口周一（保育学科 教授 副学科長）

伊藤善隆（総合ビジネス学科 准教授）

②Bグループ：中西部・西部視察

期 間：2010年9月4日～9月14日

訪問先：1. City Colleges of Chicago（以下、「CCC」）……………9月8日午前～午後

2. Harold Washington College（以下、「HWC」）……9月7日終日

3. Kennedy-King College（以下、「KKC」）……………9月8日夕刻～夕食後

4. Malcolm X College（以下、「MX」）……………9月9日終日

メンバー：岩崎敏之（リベラルアーツセンター長・生活プロデュース学科教授）

佐藤清彦（事務局次長・教務部長）

山本 滋（学長室長）

3.1 Monroe College Westchester 校 (New York)

- 訪問日：9月7日 10:00-14:30 全体、奨学金
9月8日 8:30-10:20AM E-ラーニング、LA
- キャンパス住所：434 Main St., New Rochelle, N.Y. 10801
Web: <http://www.monroecollege.edu/>
- 代表電話：(914) 632-5400
- 学校側視察受入担当者：Ms Sayaka Tamura
(International Advisor)
- オフィス住所：145 Huguenot St., New Rochelle, N.Y. 10801
- 担当者Email: stamura@monroecollege.edu
- 担当者直通Tel: (914) 740-6514
- 訪問対応者：Ms Singee Lam (Director, Asian Student Admissions) 9月7日、8日
Ms Sayaka Tamura (International Advisor) 9月7日、8日
Mr. Craig Patrick (Executive Director of Enrollment Strategy) 9月8日

 Monroe College



図1 Westchester campusの学生寮

3.1.1 概要

NYは、全米で3番目に高等教育機関数が多く、440校のカレッジや職業訓練校（キャリアスクール）がある。学生数120万人以上は、カリフォルニア州とテキサス州に次いで全米で3位である。100以上の公立校があるが、その在籍率は低く、52%程度である。

Monroe Collegeは、1933年にMildred Kingにより創立された私立の4年制大学である。米国第5代大統領のJames Monroeにちなんで命名された。現在はJerome一家により経営されており、現学長は創立者の義理の弟の子であるStephen J. Jeromeである。NY州内のNew RochelleとBronx本部校の2校、カリブのSt. Lucia校からなる。

米国の高等教育機関は、10年ごとに地域認可されなければならないが、Monroe CollegeはCommission on Higher Education of the Middle States Association により accredit されており、2007年

にre-accreditされている。取得可能な最高学位は、University of the State of New York公認の修士（Master's Degree）である（詳細な学位は参考資料参照）。なお、Monroe College のMain CampusはBronxにあり、同校の学生数は4,677人（2007年）である。

今回の視察先はWestchester (New Rochelle)校であり、①特徴的な奨学金制度、②リベラルアーツ科目群、③E-ラーニング（distance learning）について調査した。同校が大都市の近郊に位置する私立の修士総合カレッジとして成功している要因として以下をあげることができよう。

- (1) 総合大学であるが、特徴的な学科（Criminal Justice）をもつため、NYの人材ニーズに対応できるとともに、海外からの入学生を確保できる。
- (2) 効果的なブレンデッドラーニング^[7]の導入。

3.1.2 詳細

① 特徴的な奨学金制度

米国のカレッジでは奨学金制度が充実しているが、Monroe College 独自のものとしてCaribbean Tourism Organization (CTO) が提供する学費相当 (46,000 USD) の奨学金がある。同学の強みである、Security And Law Enforcement学位に関連している (参考資料参照)。ジャマイカなど、中南米諸国の警察官が同学のSchool of Criminal Justiceに入学し、その内容を高く評価したため、より多くの警察関係者に教育を受けさせるためのしくみとして同奨学金が設置された。ただし、成績優秀者1名の枠である。

同制度以外にも成績優秀者に対し、奨学金を提供している (上限年間12,000USD、SATで1800点以上、GPA3.25以上を維持することが条件) が、個別対応である。Trustees Scholarship, Deans Scholarship, Monroe Opportunity Scholarship (ヴァージン諸島、フロリダ、コネチカット、プエルトリコなどの出身者対象)、Latino Scholarship などがある。その他にニューヨーク州住民対象のNew York State Financial Aid Programsがある。外国からの留学生対象のInternational Scholarshipもあるが、個別案件対応で、ヒアリングによると、10,000USD程度が与えられるが、日本の英検2級以上、GPA3.0以上の維持が条件である。

② リベラルアーツ科目

学科により内容は異なるが、たとえばCriminal Justiceで学士号取得に必要な単位数は120単位であり、内60単位はリベラルアーツ科目である。英語9単位、数学6単位、心理学入門6単位、社会学6単位、政治科学6単位、異常行動心理学3単位、スピーチコミュニケーション3単位、アメリカ (またはカリブ) の歴史3単位、犯罪学3単位、青年心理学3単位、被害者学3単位で必須42単位が構成

されている。

③ E-ラーニング

Monroeでの完全なE-ラーニング対象者は400人である。また、ブレンデッドラーニング受講者は2000人。これによりBusiness Administration (A.A.S.)、Criminal Justice (A.S.)、Hospitality Management (A.A.S.)、Information Technology (A.A.S.)、Medical Administration (A.A.S.) の学位が取得可能である。担当教員は、かならず教室でも授業を行うことが条件になっている。このブレンデッドラーニングの成功が、学生数増に大きく貢献しており、学期ごとに5%増加している。卒業生の67%が1クラス以上をE-ラーニングで受講している。E-ラーニングの開講時期は、キャンパスでの講義日と一致しており、Univ. of Phoenixのように、5週間ごとに入学者を募り、見掛け上学生数を増やしている大学とは異なるそうである。

対象者を21才以上に限定しており、仕事を持っていたり、仕事により定期的に授業が受けられなかったり、育児や介護等で手がはなせなかったりする社会人のためのシステムである。自学自習の習慣がついており、学ぶ動機の強い人たちを対象にしているとのことである。

E-ラーニングはAxicon社のシステムを利用している。教員1人あたり15-16人を担当する。教員は利用方法のトレーニングを受け、オリエンテーションに参加し、試験に合格しなければならない。Elluminate (Face-to-Face コミュニケーション) の教育を受け、E-mailには24時間以内に、課題には1週間以内に返信することが義務付けられる。また、1週間ごとにコンテンツを更新し、ディスカッションフォーラムに参加することが求められる。

その他、Smarthinking社と契約して個別対応 (チューターサービス) のE-ラーニングサービスを提供している。Smarthinkingは文書作法に良く利用されている。

参考資料 (Monroe College)

基本情報：学生数 (2,018人)

卒業率：

種類	校名	入学生数 *1	9/1/03- 8/31/04	9/1/04- 8/31/05	9/1/05- 8/31/06	9/1/06- 8/31/07	9/1/07- 8/31/08	6年合計 *2	卒業率 *3	残数 *4	在籍率 *5
FT	Bronx	933	271	63	92	16	18	460	49%	6	50%
初年	New Rochelle	295	71	16	60	11	4	162	55%	1	55%
1年計		1228	342	79	152	27	22	622	51%	7	51%
FT	Bronx	180	33	22	20	7	5	87	48%	3	50%
編入	New Rochelle	38	7	8	3	2	2	22	58%	1	61%
小計		218	40	30	23	9	7	109	50%	4	52%
合計		1446	382	109	175	36	29	731	51%	11	51%

*3=*2/*1, *5=(*3+*4)/*1

倍率 (2007年、New Rochelle校のみ)：

	応募数	合格数	合格率	入学数	入学率
男性	401	245	61%	187	76%
女性	785	471	60%	358	76%
計	1,136	716	60%	545	76%

寮：740室

設置学科、大学院：

- * King Graduate School
- * Liberal Arts, Honors Program and Continuing Ed
- * School of Allied Health Professions
- * School of Business
- * School of Criminal Justice
- * School of General Studies
- * School of Hospitality Management & the Culinary Arts
- * School of Information Technology

2008-09年の学位授与数 (計736)

Business And Management	312	経営管理、会計学、会計実習
Security And Law Enforcement	167	刑事司法と警察、刑事司法と管理
Computer Science And Engineering	84	コンピュータと情報科学
Hospitality	64	接客管理
Medical Support And Technology	60	看護
Medical Administration	32	医療サービス管理

Cooking And Culinary Arts	14	調理サービス
Office And Administration	3	データ入力

- 特徴的なのは、[セキュリティと犯罪捜査]の学位数が多いことである。

学位レベル統計 (2008-2009)

Bachelor's degree (学士)	367	6
Associate's degree (準学士)	336	8
Master's degree (修士)	33	1

University of the State of New York 公認の学位は以下である。

[Certificate]	Practical Nursing
[Associate in Science (A.S.)]	Criminal Justice
[Associate in Applied Science (A.A.S.)]	Accounting, Baking and Pastry, Business Administration, Culinary Arts, Hospitality Management, Information Technology, Medical Administration, Medical Assisting, Pharmacy Technician, Registered Nursing
[Bachelor of Business Administration (B.B.A.)]	Accounting, Business Management, General Business, Health Services Administration, Hospitality and Management, Information Technology
[Bachelor of Science (B.S.)]	Criminal Justice, Public Health
[Master of Business Administration (M.B.A.)]	Business Management
[Master of Science (M.S.)]	Criminal Justice

学生割合

男女比	1 : 3
フルタイム : パートタイム	97 : 3
学部生 : 院生	93 : 7
年齢別	
～ 18才	3%
18～ 19才	30%
20～ 29才	51%
30才～	16%

人種別	
白人	3%
黒人	55%
ヒスパニック	18%
アジア系	4%
不明	4%
外国人	17%

同校の強み (特徴) 全米7000校のうち :

- | | |
|--------------------------|--------|
| ① 「セキュリティと犯罪捜査」での学位取得率 | トップ4%内 |
| ② 学生数のうちのマイノリティ占有率 | トップ7% |
| ③ 「経営と管理 (ビジネス系)」での学位取得率 | トップ8% |
| ④ 入学率 | トップ9% |
| ⑤ 「接客サービス」での学位取得率 | トップ13% |

米国カレッジ事情 ― 入学前教育の観点から

⑥ 「医療サービス」での学位取得率	トップ14%
⑦ 学位取得プログラム集中度	トップ15%
⑧ フルタイム学生数あたりの寮室	トップ15%
⑨ 「コンピュータ科学工学」の学位取得率	トップ16%



図2 Monroe CollegeのAdmission Officeにて、
(左より、Ms. Lam (Admission Office Director、伊藤先生、
Ms. Tanura (International Adviser)、小棹、野口先生)

3.2 チャータースクール Charter School (Boston)

とくに顕著な教育効果 (MCA : Minnesota Comprehensive Assessments, 学力テストでの評価結果) をあげているチャータースクールを訪問し、その教育手法と内容の調査を行った。その結果、学力アップに効果をあげている理由として次

のように集約できる。

- (1) 独自カリキュラムと指導法(時間をかける、勉強の習慣をつける)
- (2) キャリア教育(将来目標の徹底)
- (3) 「100%は1%の積み重ね」
- (4) 効果の測定と、測定値に基づいた問題解決

3.2.1 The MATCH Charter Public School

- ・ 訪問日時: 2010年9月9日 11:00-11:30
- ・ Web: <http://www.matcheschool.org>
- ・ 住所: 1001 Commonwealth Avenue, Boston, MA 02215
- ・ 電話: (612)-232-0300
- ・ 学校側視察受入担当者: Mr. Jahbee Duncan
(Operations Manager)



本校は2002年創立、K9-K12対象で、貧困層からの生徒が75%を占めるのに、大学進学率は99%にも達する。とくに、63% が黒人 African-American, 30% が Hispanic, 3% が Asian, そして4% が White、と95%がマイノリティであるにもかかわらず、MCAで高得点を出している。その成功の理由は、カルチャにあると言われる。Success in College and Beyondというカルチャ

が教員の中で共通理解されているだけでなく、生徒にも徹底して教え込まれている。環境も良く、Boston 大学の隣に位置するため、生徒は常に大学進学意識が植え付けられることになる。また、チャータースクールでは、独自の時間割と授業形態がとれるため、午後からはチューター1人で生徒2人、という個別指導に近い教育が行われているのが強みである。

3.2.2 Roxbury Charter School

- ・ 訪問日時: 2010年9月9日 13:00-15:00
- ・ Web: <http://www.roxburyprep.org>
- ・ 住所: 120 Fisher Avenue, Roxbury, MA 02120
- ・ 電話: (617)-566-2361
- ・ 学校側視察受入担当者: Ms Mahlstrom (Administration Assistant)

Roxbury Preparatory Charter School
Preparing students for college and beyond



Boston誌にも大きくとりあげられた1999年設立の低所得者層対象のチャータースクールである。校舎は介護施設の3階1フロアのための、看板はあるが、その場所にたどりつくのに時間がかかった。

約250人規模のK6-K8対象(中学校)。72%が貧困層。マイノリティ100%であるにもかかわらず、2009年のMCA得点(K8)は、英語98点(ボストン平均59点)、数学96点(ボストン平均28点)、と驚異的な成果をあげている。朝7:45開始、16:

15終了であるが、チューター、クラブ、補習で17:30までみっちり教育をうける。また、優秀な生徒とペアを組んで学習させる。生徒は、時間を無駄

にしない、集中、を教え込まれる。教室移動は私語厳禁。教員は出身大学のグッズを部屋のドアなどにディスプレイして進学意欲を高めている。

3.2.3 Boston Collegiate Charter School



- 訪問日時：2010年9月10日 9:00-12:00
- Web：http://www.bostoncollegiate.org
- 住所：11 Mayhew St Dorchester, Boston, 2125 MA02125
- 電話：(617)-265-1172
- 学校側視察受入担当者：Ms. Sarah Siegel Muncey (Dean of Administration)

1998年にK5-7（日本の小学校高学年）対象の、120人規模のチャータースクールとして設立。現在はK5-12を対象とする500人規模のスクールにまで拡大している。7年間連続して卒業生の100%が大学進学を果たしている。また、マサチューセッツ州で唯一、K10生が全員、MCAの数学試験に7年連続して合格している（2003-09）。本校への入学生は全員くじ引きで決められる。2008-09年の希望者は、682人、うち92人があたりくじを引いた。優れた教員がいることでも知られ、Boston誌でもとりあげられた。

本チャータースクールの特徴を一言で言うと、“Non-traditional curriculum and school structure” だそうである。教員組合に入っていない教員を採用できるので、給与、勤務形態がフレキシブルになる。解雇もありうるが、ワークライフバランスには気をつけているそうである。この配慮をしないと、2年ほどでBurn-outしてしまうそうである。その他の点は、かならず教員経験者が管理者・経営者になる、若い情熱のある教員を採用する（革新的な指導法を考えてくれる想像力

豊かな若者がチャータースクールに採用される傾向がある）、教員の力が問われる（チェックシートで授業が評価される一方、優秀な教員は給与で優遇する）、などが特徴としてあげられよう。

低学年では、きびしくしつけ教育がなされている。私語をした、宿題をしなかった、持参すべきものを忘れた、など、勉学態度をチェックし、態度に問題がある場合は、イエローカード、レッドカード対象者として名前が貼り出される。その一方で、優秀者は、表彰され、シルバーバンドや特典が与えられる。

K10でCollegiate Skills（シラバスは参考資料参照）を学ぶ。キャリア教育に相当する。25歳になったときの自分を想像させ、その時点に向かって達成すべき目標を設定させ、計画をたてさせる。他にはテーブルマナー、着こなし、履歴書の書き方なども内容に含まれている。

参考資料 (Collegiate Skill シラバス)

Collegiate Skills: My Paths
Boston Collegiate Charter School
10th Grade 2010-2011

Instructor – Mr. Clark
Office Hours

jclark@bostoncollegiate.org

ext.274

Wednesday 3-4

Friday 3-4

Class Meet Times:

Wednesday Thursday and Friday

2nd period

COURSE DESCRIPTION

The second year of Collegiate Skills, *My Paths*, is designed to give students a forum to reflect on who they are and to identify strengths and passions as well as weaknesses and areas of disinterest. Students will engage in career development and college search exercises that will expose them to a range of skills and opportunities that they have not yet encountered in the classroom. Lastly, students will link their personal assessments with this career exposure and create their own “Pathways to Success”.

COURSE SYLLABUS

Quarter One: *Personal Assessment*

Guiding Questions: What matters to you? What are you good at?

- Students will identify the values that are important to them and their natural talents.
- Students will take a personality inventory in order to identify possible career goals.
- Students will articulate their “collegiate interests”.

Quarter Two: *Career Development*

Guiding Questions: What career possibilities interest you? What kind of skills are required for the workforce?

- Students will expose themselves to such job skills as office management, software expertise, and interviewing techniques.
- Students will learn firsthand from experts in the field what is required for success.

Quarter Three: *College Search*

Guiding Questions: What aspects of college are you excited about? What kinds of campuses and school programs interest you?

- Students will register with the CollegeBoard.
- Students will identify different types of colleges.
- Students will research colleges in order to identify ones of interest.

Quarter Four: *Pathways to Success*

Guiding Questions: How can your interests and skills impact your future?

- Students will link their personal assessments (i.e. what their natural talents and interests are) with their new workplace knowledge resulting in a reflective analysis about possible future internship, college, and career goals.

MATERIALS NEEDED

- ☐ Hard cover composition notebook or spiral notebook (this will be handed in every week—you will not be able to share this with another course)
- ☐ Pocket folder or 1/2” 3 ring binder for handouts

GRADING

Collegiate Skills is a Pass/Fail course.

The following is an excerpt from the 2010-2011 Student Handbook:

BCCS high school offers several courses for partial credit on a Pass/Fail basis... these partial credit courses are graduation requirements and must be mastered before a student can be promoted. If a failing mark is earned in such a partial credit course, the student must complete the portfolio requirements of the course before enrolling in the subsequent grade.

Portfolio Requirements include:

- Daily and weekly journal entries
- Quarterly class work projects
- Culminating “Pathways to Success” Power Point presentation

Quarterly grades will be determined by:

Journal entries and class participation: 50%

Quarterly projects: 50%

- *Quarter 1: Collegiate Intent Presentation*
- *Quarter 2: Job Skills Performance Checklist*
- *Quarter 3: College Matchmaking Chart*
- *Quarter 4: Pathways to Success Project*



図3 Boston Collegiate Charter School玄関にて、
(左から、伊藤先生、Ms. Muncey (Dean of Administration)、小棹、
野口先生)

3.3 The Community College of the District of Columbia (in The University of the District of Columbia) (District of Columbia)

- 訪問日時：2010年9月13日 16:15-17:45
- Web：http://www.ccdc.usdc.edu
- 住所：801 North Capitol St. NE, Washington, DC 20008
本部（9月13日よりリニューアルオープン）
- 電話：(202)-274-5000
- 学校側視察受入担当者：

Dr Jonathan Gueverra, CEO of CCDC

Ms Julie J. Johnson, Deputy Director, Office of the CEO
(jjjohnson@udc.edu)

Ms Danielle Madison, Administrative Assistant
(dlmadison@udc.edu)



3.3.1 概要

The Community College of the District of Columbia (以下CCDC) は、米国の首都、ワシントンD.C.内の唯一のコミュニティカレッジであるということ、かつ2009年9月にThe University of the District of Columbia (以下UDC) から分離して設立され、この1年間で1,779人から5割増しの2,335人に達した、など、注目されている都会型カレッジであり、次の3点に絞ってヒアリングを行った。

①学生的大幅増を達成している理由、②リメディアル教育、③学生の学ぶ意欲を維持する方法。この結果、①に関しては、DCからだけでなく、すべての地域からの入学生に対して学費を低く（3000US\$）設定していること、これを実現するために正規スタッフ30人でカリキュラムデザインを行っていること、DCで必要な人材に対応できる学科はすべて設置していること、がわかった。とくに、連携（partnership）により様々な分野に対応していることがわかった。また、海外（中国など）と Duo-Degree という制度を設けることに成功している。②に関しては、近隣高校5校の

2年生に対し、プレースメントテストを行い、学力不足の生徒に対しOn-line learningを提供していることがわかった。③に関してはAccelerated Learningという手法があるとのことである。

3.3.2 詳細

UDCは、2004年より改組に着手し、2009年にCCDCを分離独立させたのち、入学選抜を実施し、授業料を値上げし（現US\$3700→5,370→7,000、Maryland州、Virginia州外はUS\$12,300→14,000）、より研究中心の専門性の高い教育に注力し、資格としてcertificate, baccalaureate（学士に相当）、graduate（修士以上）を認証するようになった。その一方、CCDCは、UDCを通してMiddle States Commission on Higher Educationの認証を受け、授業料を年間US\$ 3,000に据え置いたまま、準学士以下の認証と職業訓練の役割を担うことによって、キャリア教育を分担することになった。CCDCのMissionは “These programs will prepare students for immediate entry into the workforce, the next level of education, specialized employment opportunities and life-

long learning.”であり、目標は以下のとおりである。

- ・ 米国一のコミュニティカレッジの設立と拡大
(Create and nurture a premier community college)
- ・ 無試験入学（オープン）な教育機関の提供
(Open admissions policy)
- ・ 即戦力の職業人の育成
(Major vehicle for workforce development)
- ・ 四年制大学への入口の提供
(Gateway to a four-year college education)
- ・ グローバルな視点を持った高等教育機関の提供
(Become an outstanding institution for undergraduate education with a global focus)
- ・ DC と米国にとって必要な専門性をもった人材の育成
(Offer exceptional, research-driven graduate and professional programs of important to the District and the nation)
- ・ DC を含む地域の経済的発展への寄与
Provide an important economic engine for the District of Columbia and region

また、授与可能な資格としては、以下の2つに加え、下記準学士の学位がある。

- * Nursing Assistant
- * Practical Nursing

準学士

- * Administrative Office Management
- * Architectural Engineering Technology
- * Automotive Technology
- * Aviation Maintenance Technology
- * Business Technology
- * Construction Management
- * Computer Accounting Technology
- * Computer Science Technology

- * Corrections Administration
- * Education
 - o Infant / Toddler Education
 - o Early Childhood / School Age (Pre-K – Grade 3)
 - o General Education (Elementary and Secondary)
- * Fashion Merchandising
- * Graphic Communication Technology
- * Graphic Design
- * Hospitality Management & Tourism
- * Law Enforcement
- * Legal Assistant
- * Liberal Studies
- * Mortuary Science
- * Music
- * Nursing
- * Respiratory Therapy

また、CCDCは、連携Workforce Development Program (WDP) を実施するために、他校と連携している。WDPは、下記の国家資格取得のためのプログラムで、資格を取得するためには、100時間以上の受講と、試験合格が条件である。

Certified Nursing Assistant (CNA) Program

Child Development Associate (CDA) Program

Heating and Air Conditioning (HVAC) Program

Medical Assistant (MA) Program

Medical Office Administrative Assistant (MOA) Program

各学科、プログラムによって、キャンパスと連携校が異なる（図4参照）。

- ① Bertie Backus: 5171 S. Dakota Ave. NE

Practical nursing, Nursing assistant, and Home health aide programs and the Architectural engineering, Fashion merchandising and Construction management degree programs. (拡大中)

② Excel Institute: 2851 V Street NE

Full-time A.A.S. Automotive technology degree program and students preparing for Automotive service excellence certification in six areas.

③ Reagan National Airport, Hangar #2

Aviation maintenance technology certification and degree programs.

④ University of the District of Columbia:
4200 Connecticut Avenue NW

CCDC's mortuary science program.

Workforce Development and Lifelong Learning
- Specific Locations:

1. Cardozo High School - Construction Training: 1200 Clifton Street NW
2. Fletcher-Johnson - Vocational Education Training: 4650 Benning Road SE
3. French Institute - Vocational Education Training: 4000 Albemarle Street NW
4. Friendship Public Charter School - Vocational Education Training: 2055 Minnesota Avenue, NE
5. McKinley Technology High School - Vocational Education Training: 151 T Street NE
6. PR Harris Education Center - Vocational Education Training and CCDC Classes: 4600 Livingston Road SE
7. Roosevelt High School - Hospitality Training: 4301 13th Street NW

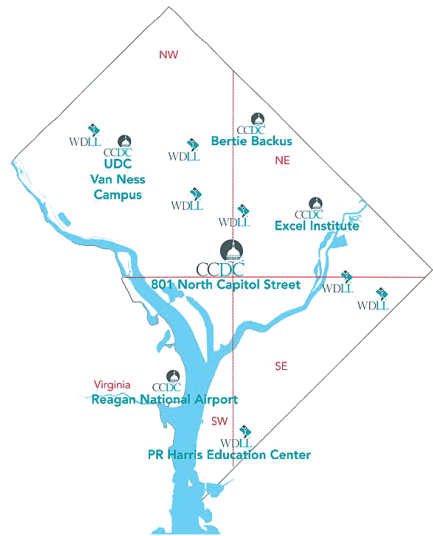


図4 CCDCと連携各校の地理的分布

参考資料

下記のCCDCオフィサーの2人と懇談を行った。懇談録を下記に示す。



Dr. Jonathan Gueverra
Chief Executive Officer
Community College of DC



Julie J. Johnson
Deputy Director
Community College of DC

小棹（以下O）：年度初の授業開始日、という
もっともお忙しい日に、ありがとうございます。
さっそくですが、湘北短期大学は東京から
電車で1時間半の距離にある学生数1200
人規模の私立の2年制カレッジです。35年
前にソニーによって創立され、現在は4学
科があります。今回お伺いしたのは、文科
省のGP事業として、本学の入学前教育を確

立するにあたり、リメディアル教育や、教育方法、システムに関して先進的な事例を調査するため、貴学が設立時 1800 人でスタートし、1 年間で 50% 増の偉業を成し遂げられたとワシントンポストで知ったからです。そのマジックを伺いたいのと、また、Developmental Education に関して教えていただきたいと思っています。(以下、湘北の mission や、学科についても聞かれたが、それらに対する答えは略)

Dr. Gueverra (以下 G) : まず第一に、米国全体でコミュニティカレッジ入学希望者が増えている。Washington 地域だけでも 09-10 年で 12,000 人増だから、日本とは事情が違うだろう。次に、コスト。低所得者層で、教育を受けたいと思っている人が多いので、学費が通常の私学の 1/3 だ。また、ターゲット年齢も 18-22 ではない。さらに、多彩な職業訓練プログラムを提供している。

O : Mortuary Science の準学士取得コースなど、日本では想像もつきませんが。

G : 私もだが。その前に質問がある。湘北では、4 つの学科だが、日本と米国、年齢別人口分布は同じだから、高齢者対象の学科があってもいいように思う。なぜ、Geolontology 関連の学科を作らないのか？高齢者のケアや管理に関する仕事が増えると思う。

O : それはそうですね。ただ、日本の私学では、学科の新設は文科省の認可事項なので、簡単には学科を変更することはできません。学科内でのコースやフィールドの新設はできますので、良いサジェスションをいただきました。関連して、本学では 1200 名の学生に対して教員が 40 名います。貴校では、24 もの学位と資格をとらせるわけですが、フルタイムの教員 35 名で 2400 名の学生、どのように運営

しているのですか？

よほど教員の待遇が良いとか、なんらかの優遇措置がないと、たいへんな仕事量だと思いますが？

G : コミュニティカレッジの教員の職務は、大学教員に要求されるそれとは異なる。フルタイムの教員は、各コースでカリキュラムを設計し、非常勤講師を配置する。

Johnson (以下 J) : 今はフルタイム 43 名で、非常勤講師が 100 名以上います。学生 : 教員比は 16-40 : 1 です。

O : それにしても、授業料が年間で USD3,000 というのは通常の 1/3 ですが？

J : フラットレートです。州によっては、州外を受講生と学費・授業料に差をつけるところもありますが、CCDC は差をつけていません。

O : 残りは政府が払っている？

G : 払ってはいないが、補助金がある。州で唯一のコミュニティカレッジであることもあり、学費を年額 USD3,000 に抑えることを期待されている。

ところで、日頃私が行っていることのひとつが “Partnership” だ。連携なくして拡大はありえない。湘北は連携をしているのか？
Exchange Program があるようだが。

O : 海外では、オーストラリアのニューカッスル大学と学生・教員のエクステンジを行っています。

G : 私が勤めてきた今までの大学で成功してきたのは partnership のおかげだ。ロシア、エストニア、中国、とくに中国は大成功だ。

O : 湘北の学生にもそれが可能なら広げたいと思っています。

G : Duo-Degree だ (二つの学位の同時取得)。CCDC の学生で、日本に関して学びたい学生は、湘北の科目を履修し、単位をとる。逆

に、湘北にしながら CCDC の学位がとれる。学費はそれぞれ属するカレッジのみに支払うようにする。湘北にしながら、CCDC の単位をとるためには、25% の単位取得で可能だ。たとえば、E-ラーニングも取り入れれば、難しいことではなかろう。

O: 25% ですか? 湘北で学位をとるには、66 単位以上とらなくてはなりません?

J: そうです、コースやプログラムによっても違いますが、16 ~ 21 単位とればいいことになります。うちもおおよそ 60 単位ですから。

G: 突然だから混乱したかも知れないが、湘北の学生がほとんど CCDC に来ることになるかも知れませんよ (学費 30 万円!!)。実際、学生の出身地分布のデータを見ていただければわかりだろうが、DC 内は 80% 程度、20% が DC 外だ。

J: ところで、Developmental Education にも興味をお持ちなのですね?

O: そうです。今まで湘北の教員はリメディアル教育を行って来ていませんでしたから、ぜひ教えていただきたい。

G: 同士!(Welcome to my Club!) AACC(American Association of Community Colleges) は知っていますか。教育手法やシステムを研究した事例が豊富にある。4 月には大会があって、全米の教員が集まって、様々な議論や参考になる事例報告がされる。

また、大人むけのキャリア教育に関しては、Achieving a Dream サイトがあって、卒業生の基金や、生涯学習に関する情報も得られる。Web 検索すると出てくる。重要なことは、まず、データを取って、分析し、戦略を考える。私たちの教育が成功しているのはこのくり返しだ。

J: 地元の高校とも協力しています。高校 1 年

生 (10thGrade) にテストを行い、学力が不十分な生徒に対して “Computer based Program” を提供しています。カレッジに入るために必要な基礎学力を早期につけてもらうために、近隣 5 校と提携しています。

O: それはたいへん興味深いです。私たちも連携校に対してはプログラムを提供してきました。それが今回の GP です。コンピュータプログラムは無料で提供しているのですか?

J: そうです。広報上も大きなメリットがあります。これにより早期にカレッジを意識する、カレッジと言え、CCDC、となりますから。ソフトリクルーティングですね。

G: Soft service、カスタマーサービス、フォローアップが重要だ。たとえば、イベントや若者が集まる場所ではかならず名刺を配る。また、今日は、この新しいキャンパスに移って初日だが、キャンパスが移ることに始めて始終苦情を言っていた学生がいた。彼女に対し、すぐに返事をし、細かな対応をした結果、このキャンパスに移ってみて、彼女は初めて納得し、パーティを主催する、とまで言ってきた。細かなことの積み重ねだ。

O: 学生のモチベーションを継続させるにはどうしたらよいのでしょうか?

G: ひとつは、様々なプログラムを提供すること。知識だけでなく、職業訓練プログラムを提供している。

O: 周辺の高校で実施されている WDLL ですね。

G: そう、高校だけでなく、Technical college や Institute も入っている。もう一つは Accelerating learning だ。これを実施するにあたっては、30 人程度の小さなグループで始めるのが良い。教員も注意深く選別して、教員自身も十分に教育しておく必要がある。

O: ありがとうございます、貴重な情報です。最

後に1つ、お伺いしたいのは卒業生の就職先です。116人が学位をとられたそうですが。

G：企業と密接な関係を作っておくことが重要だ。CCDCが面倒を見て、受刑者20人をホテルに就職させた。また、Mortuary Science 卒業生を葬式のピンニングサービスに派遣したら、すぐに就職が決まった。

O：（反応しがたい）本当に具体的なお話をありがとうございました。とても勉強になりました。

G：湘北に請求書を送るよ。今日は新しいキャンパスでの第一日、その日に来られたのも何かのご縁でしょう。これからも良い関係ができるといいですね。

（以上）

4. まとめ

米国カレッジ視察研修の実施にあたり、東部グループは高校（チャータースクール）、カレッジ（コミュニティカレッジ、4年制大学、という縦の教育機関の役割の中で、短期大学における教育の効果を高める方法に重点をおいた。その中で、リベラルアーツ教育の在り方や、効率的な教育方法、学習意欲の持続方法、ブレンデッドラーニングの導入の有効性など、多くを学ぶことができた。

また、リベラルアーツ教育科目の単位数がカリキュラムの約半分を占めること、言語能力と数理能力を高める科目が多いこと、ブレンデッドラーニングの導入率が高いこと、コミュニティカレッジでは職業を意識した提供プログラムの多いことなども新たに得られた知見であった。

謝辞

本研究は平成21年度文部科学省選定 大学教育・学生支援推進事業【テーマA】大学教育推進プログラム「現代型社会人育成を俯瞰する入学前教育構築」の助成によるものです。

【注】

- 1 The Carnegie Classification of Institutions of Higher Education™
(<http://classifications.carnegiefoundation.org/>)
- 2 米国で最初の大学は1636年創立のハーバード大学と言われているが、その当時から学力問題があった。大学でいきなりラテン語とギリシャ語を教えられれば、無理からぬことであろう。
- 3 U.S. Department of Education Institute of Education Sciences
(http://nces.ed.gov/programs/digest/d04/tables/dt04_310.asp)
- 4 詳細は3章
- 5 Community College Journal, American Association of Community Colleges
(<http://www.aacc.nche.edu/Publications/CCJ/Pages/default.aspx>)
- 6 2009年9月～：
青山TGセミナー伊藤伸哉氏に提案依頼
2010年2月16日：
事例提案 「米国におけるプレスクール事情」
2010年8月13日：事前勉強会開催

【参考文献】

- [1] Cohen, A.M. and Brawer, F.B.; “The American community college” (4thEd) John Wiley & Sons (2003)
- [2] Boyer, E.L. 著、喜多村和之・館昭・伊藤彰浩訳「アメリカの大学・カレッジ（改訂版）」玉川大学出版部（1996）
- [3] Kerr, C. 著、喜多村和之監訳「アメリカ高等教育

試練の時代—1990-2010 年」(1998) 玉川大学出版部

- [4] Cohen, A.M. and Brawer, F.B.; “The Collegiate Function”, The American Community College (Jossey-Bass; 4th ed) (2002)
- [5] Tyree, L., “Building Communities: Collaborative Strategies for Global Competitiveness” *Community, Technical, and Junior College Journal*, v60 n4 (1990) p42-44
- [6] 谷川裕稔著、「アメリカコミュニティカレッジの補習教育」大学教育出版 (2001)
- [7] Means, B.; Toyama, Y.; Murphy, R.; Bakia, M; Jones, K.; “Evaluation of Evidence-Based Practices in Online Learning: A Meta-Analysis and Review of Online Learning Studies”, US Department of Education (2009)

Challenging colleges in US - Developmental Education and Partnership

OZAO Riko

【abstract】

Remedial Education had played an important role in US college education until 2004. However, from economical reasons and from the viewpoint of retaining academic standards in post-secondary education, the role of developing the minimum skills necessary for the functional participation in democratic society and economy has been given to first year experience classes and to liberal arts education in colleges. Instruction method using ICT also helps students to provide knowledge and skills necessary to succeed in university.

【key words】

Community college, developmental education, liberal arts, first year experience

